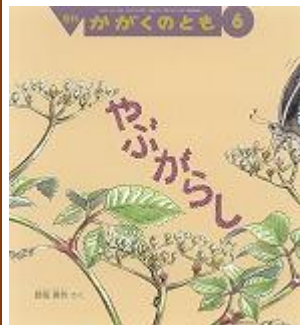


【緑地を楽しむ本】

『やぶがらし』 月刊かがくのとも 通巻687号

野坂勇作さく 福音館書店



(本の題名は「やぶがらし」ですが、標準和名は「やぶからし」なので、こちらで書きます。)

やぶからしはどこにでも生えている、赤みがかかったつるのある植物です。引っこ抜いても、地下茎があるので間もなくまた生えてきま

す。他の植物に巻き付き、どんどん上に伸びて行って、馬乗りしている感じになります。

そして、太陽を一杯に浴びます。沢山の葉を広げた姿は、まるで巨大な生き物のようにも見えます。

やぶからしは葉の付け根に花の房をつけます。房が広がると、オレンジ色の花を咲かせて、甘い蜜を出します。その蜜を蟻や蝶などが舐めに来ます。色々な虫たちの命をつないでいるのです。

私は今まで、やぶからしを嫌な奴と思っていましたが、大切な役目を果たしていることを知りました。

(齋藤好子)